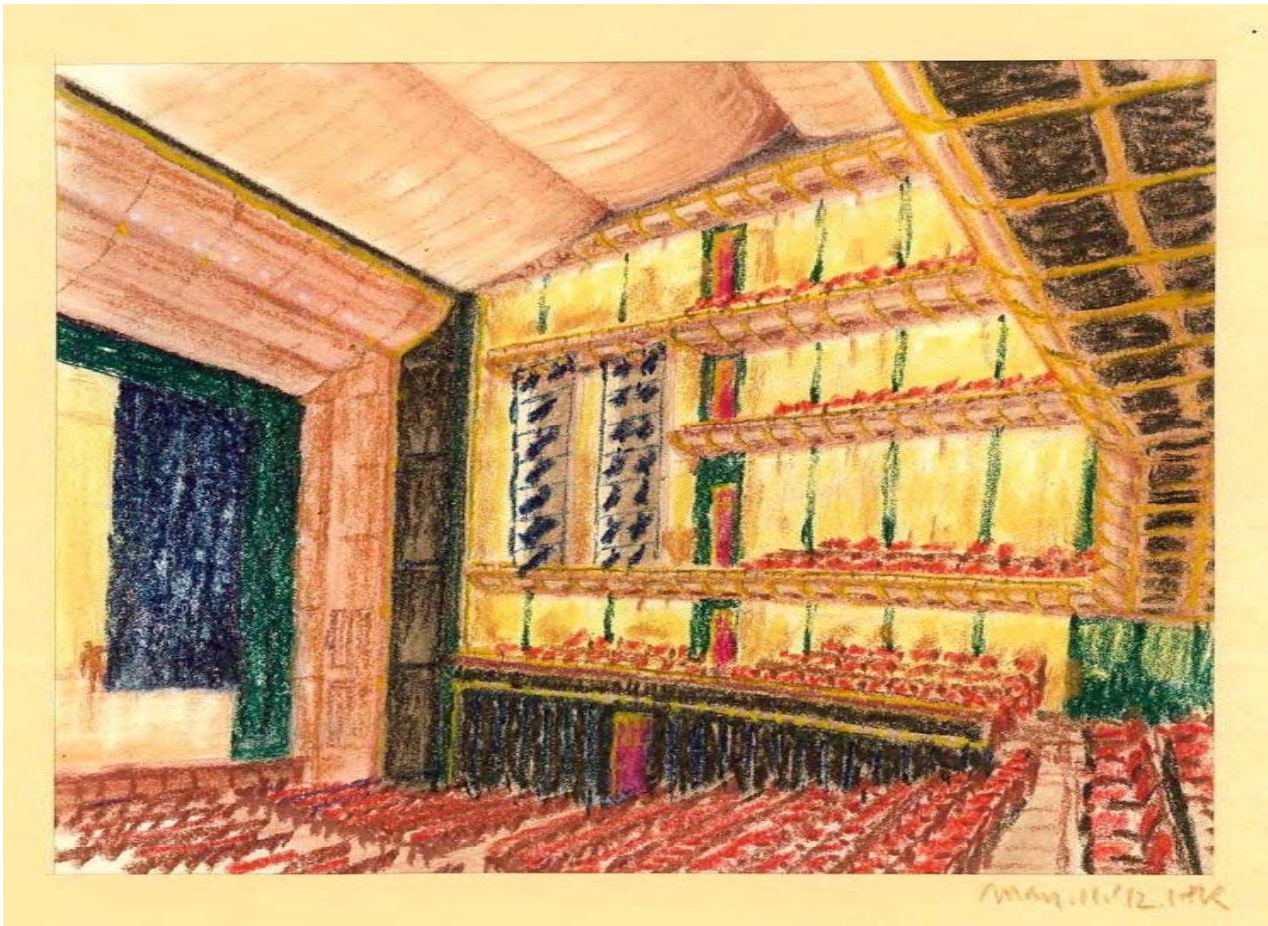


ホール，舞台計画

□第1ホール

- 立体的に積み重ねられた4層のバルコニー空間と、十分な勾配をもつ平土間席による2000席以上の多目的ホールとして整備。舞台までの最大視距離を30m以内に設定することで、非常に親密、かつ舞台と客席が一体感を有する劇場空間を形成する。
- バルコニー席の断面は、下階の天井から巻き上がるような曲面を成す。仕上は木練付、真鍮いぶし仕上げ調リップ。この形は舞台からの音を拡散させつつバルコニーの奥まで効果的に取り込む効果をもち、バルコニーバトンと、設置される機器類を内包する。
- プロセニウムから天井にかけては、バルコニー席と同様に木質の曲面天井が連続。平土間席へ均等に初期反射音をサプライ、生音による豊かな響きを醸し出す。
- 内装は伝統工芸（漆、陶芸、金工、漆喰）を彷彿とさせる技術や素材を選定。
- 構成の妙味や素材感の豊かさによる、洗練された伝統を基盤とした意匠を展開。訪れる人を華やかな高揚感で包み込む劇場内装とする。



第1ホールイメージスケッチ

□ 第2ホール

- 内装は現況の第2ホールの木製ルーバーの壁を踏襲しつつ、室内照明を吟味、非日常感を高める。
- 基本的に木部はグレー系とし、あらゆる演出に対応できるニュートラルな色彩計画とする。
- 舞台レベルを現況高さから+300mmとし、客席勾配も改修、1階席の勾配を設け、視覚条件を向上させる。2階席は立ち見席を取りやめ、最前列を舞台に近づける。また、上下（かみしも）の1,2階席の中間レベルにバルコニー席を設置し、一体感が希薄であった客席と舞台の関係を改修する。



現況 第2ホール

□ 多目的スタジオ（増築部分地下2階）

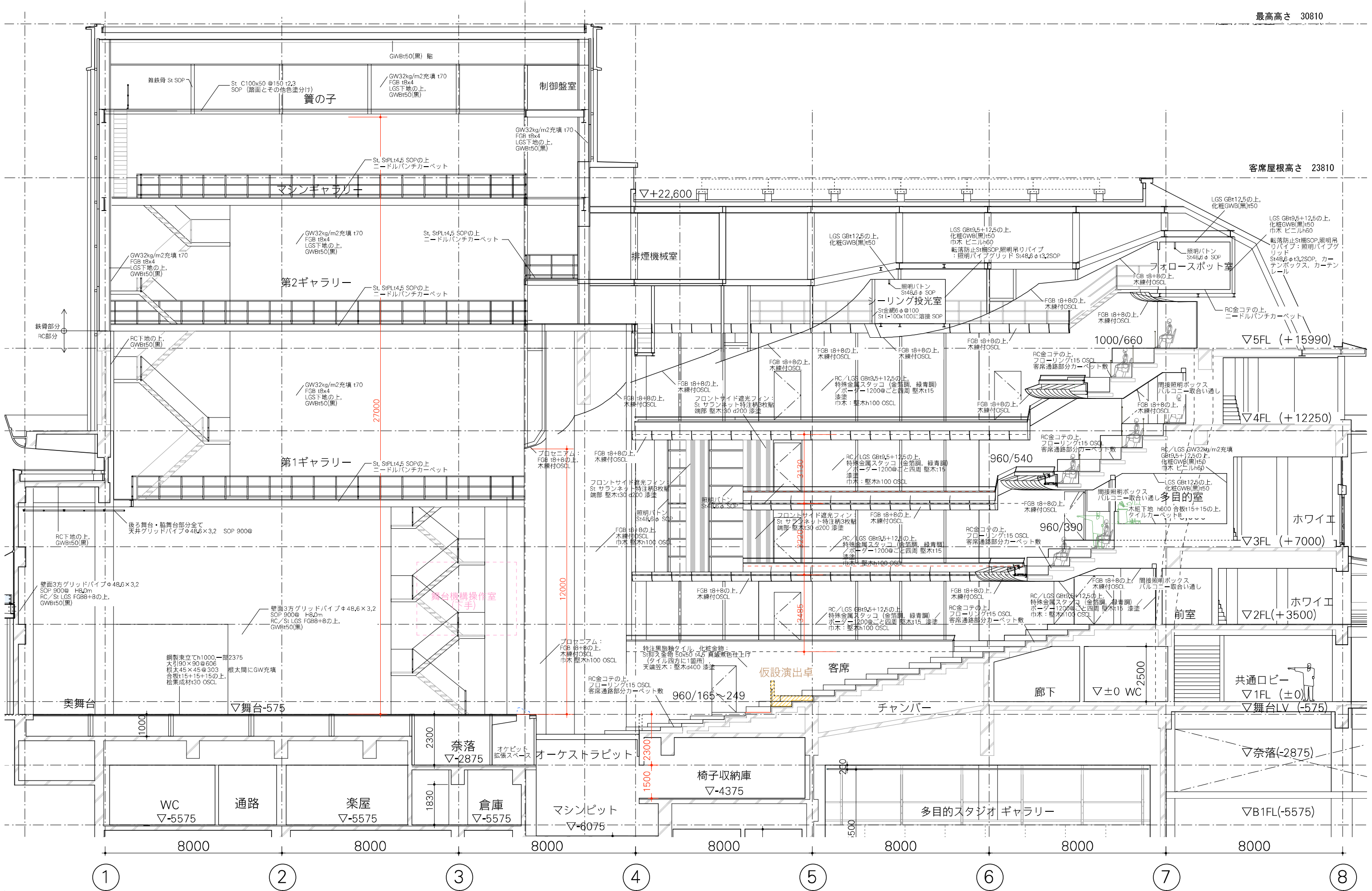
- 平面サイズ14.5mx18.18m(8間x10間)の大きさで、稽古場利用の他、興業公演を可能とする客用ラウンジ、トイレを整備。可動椅子を用いた200人収容の小ホールともなる。
- 床から高さ約5mの位置に設けたグリッドパイプには様々な照明器具の設営に対応し、床面から3mの位置に設けたギャラリーは照明-音響操作の基地として整備。
- 壁にはフルハイトの姿見とパレエ・バーを設置。床は膝を傷めない適度な弾力をもつ仕様とし、舞踊等の練習に対応。内装は汎用性を考慮した木質系仕上げ。
- 搬入用に大型ELV（奥行き4.0m x 幅2.0m）を設置することで、第1ホールとバックヤード動線、セキュリティエリアを分離。音環境も床、壁、天井全てを浮き構造とすることで、上部第1ホールとの同時利用を可能としている。また、第1ホールでの吹奏楽や合唱コンクール等の出演者控え、兼練習スペースとしても機能する。

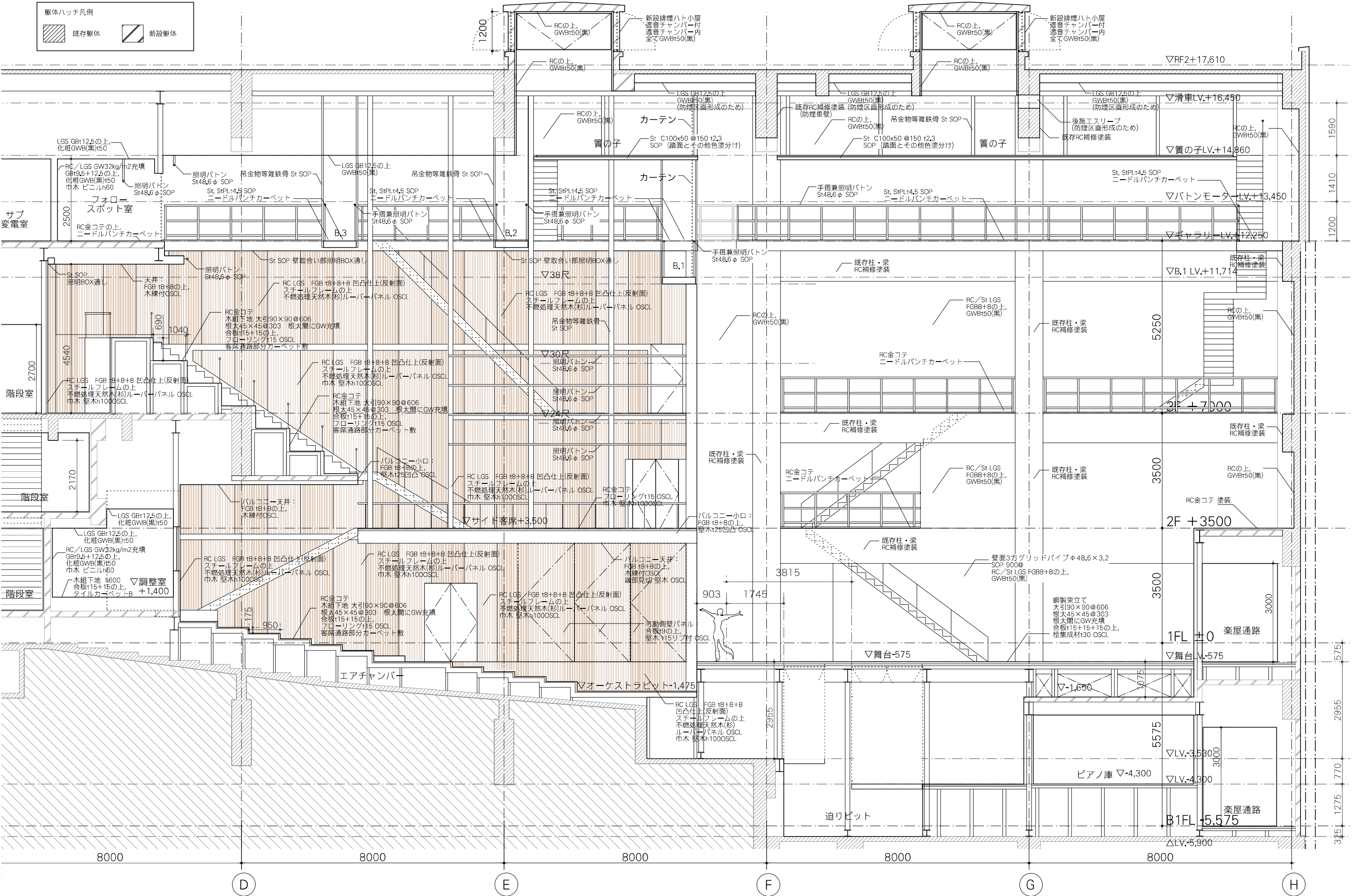
□ にぎわいスペース（現況 会議棟会議場）

- にぎわいスペースとして、1階飲食店部分と同様に賃貸部分として整備を行う。
- 内装構成要素を基本的に継承する。特徴である木引戸建具は再利用を行う。
- バリアフリー対応で、2階から車椅子でアクセス出来るルートの新設する。
現況傍聴席下2階部分を、多目的トイレ、倉庫等設置とするため改修を行う。
- 現況傍聴席を中止しスラブを設置、3階を事務室とする。上部の同時翻訳室群は倉庫として改修。



現況 会議棟会議場





□ 現況第 1 ホールの課題点と再整備計画の内容

- ・舞台奥行きが不足しており、演技をするスペースが小さく、充分な舞台セットが組めない場合がある。
- ・舞台が奥に行くほど、狭くなっており、舞台間口と同じ幅の背景が設置できない。
- ・舞台内高さが不足しており、舞台上部も奥に行くほど低くなっているため、舞台セットを上部に上げられないなど、舞台上部を有効に使えない。
→間口9間(16.36m)x奥行き10間(18.18m)。舞台上有効高さ27mを確保し、様々なジャンルの舞台芸術に対応する。
- ・バトン等の吊り物数が少なく、積載荷重にも制約があるほか、吊り物を設置できる上部スペースも不十分であるため、舞台転換に時間がかかるなどの、演出に制約が生じている。
→分速90mまでの無段階の可変速型、最大積載量1トン、レベル設定及び表示や同期運転の対応、静音性能に優れた動力装置の採用を行い、多様な演出を可能にする。

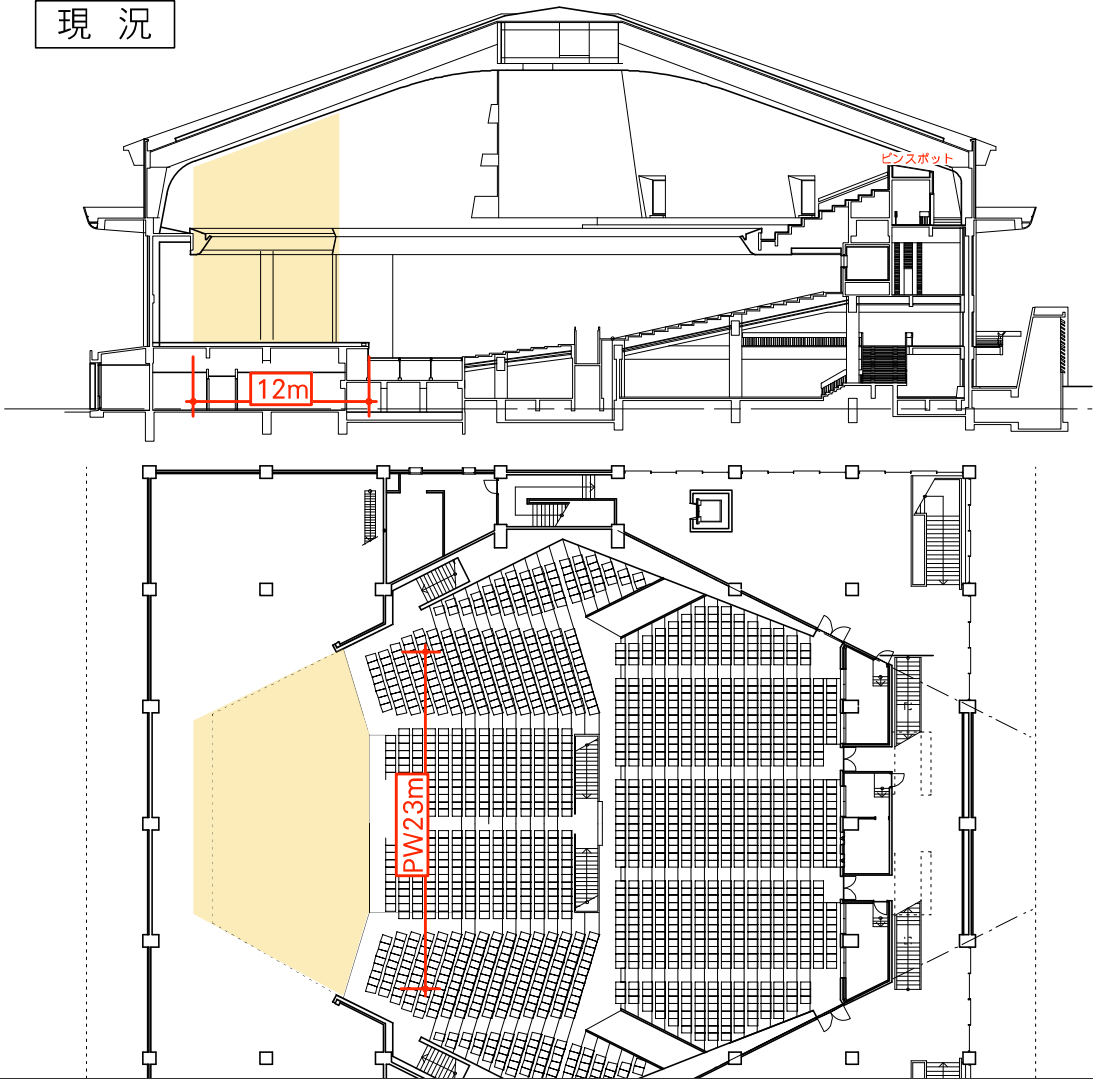
- ・音響反射板の機構が古いため、調整や設置に時間がかかる。
→主舞台での吊物バトンを制約しない範囲に、天井と正面を一体化させた音響反射板を計画する。
また、側面反射板は、両サイドの袖上部（上下）に計画する。
全て電気を動力とする吊物を設置、舞台上部に巻取りドラムを設置することで、舞台床面から綱元を無くし、舞台の広さを有効に活かせる計画とする。
- ・ピンスポットの位置が、1階客席奥にあるが、間仕切り等がなく客席と接しており、高さも充分にないため、観客が立ち上がるとピンスポットの影になるなど、照明操作上支障が生じている。
→フォロースポット室、シーリング投光室を客席と区画して設置。
プロセニウム形式ホールに求められる仕様に対応する。

現況第1ホール 主な施設・仕様

現況客席数	1F	2F	計
通常席	1562	443	2005
車椅子席	10		10
計	1572	443	2015

舞台サイズ（プロセニウム時）
間口前部23M（間口後部13.2M）
奥行12M
高さ前部 平均6M～9.5M（可変）
高さ後部13.2M
吊物バトン本数：8本 全て手引き

現 況

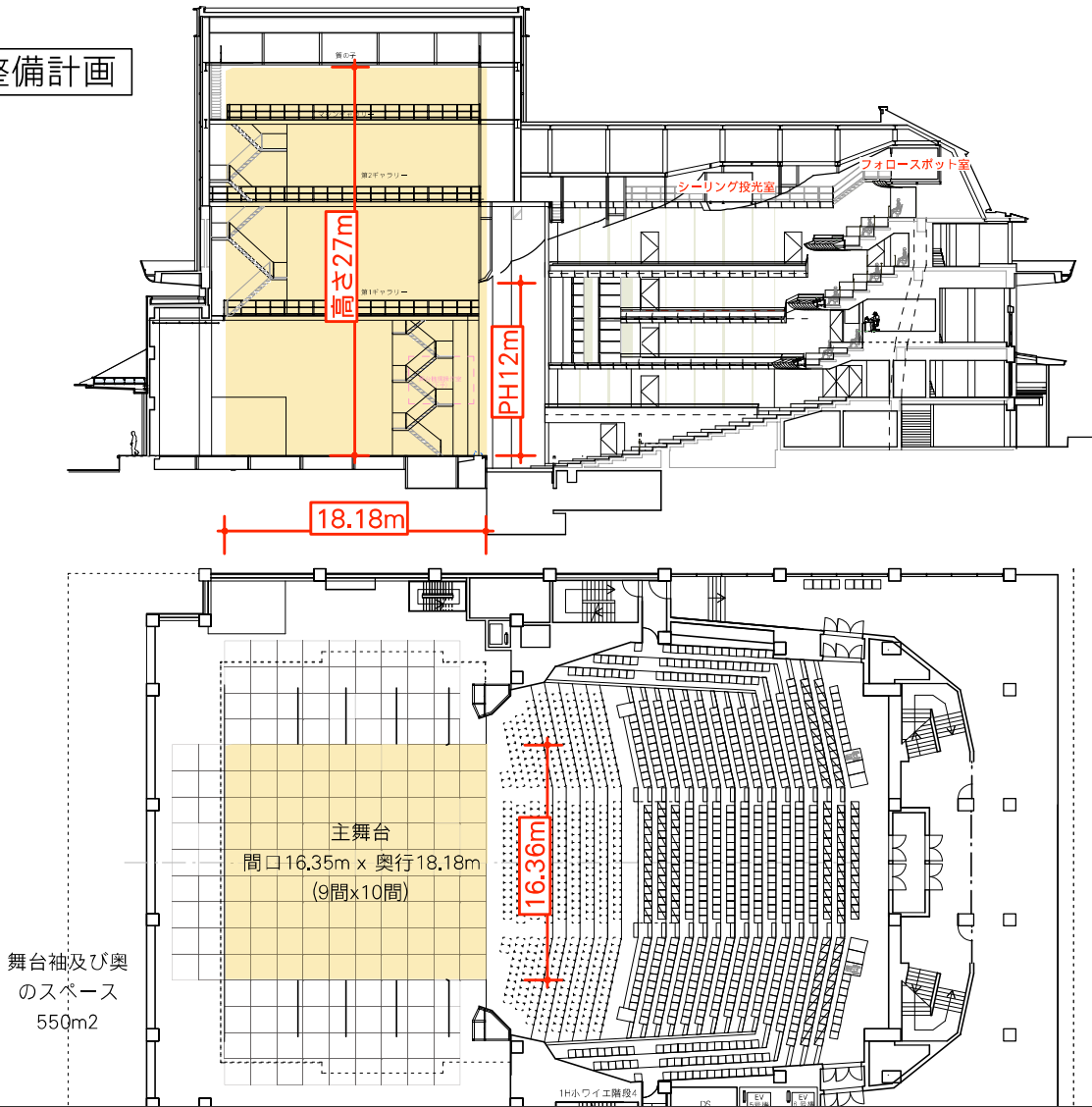


再整備計画第1ホール 主な施設・仕様

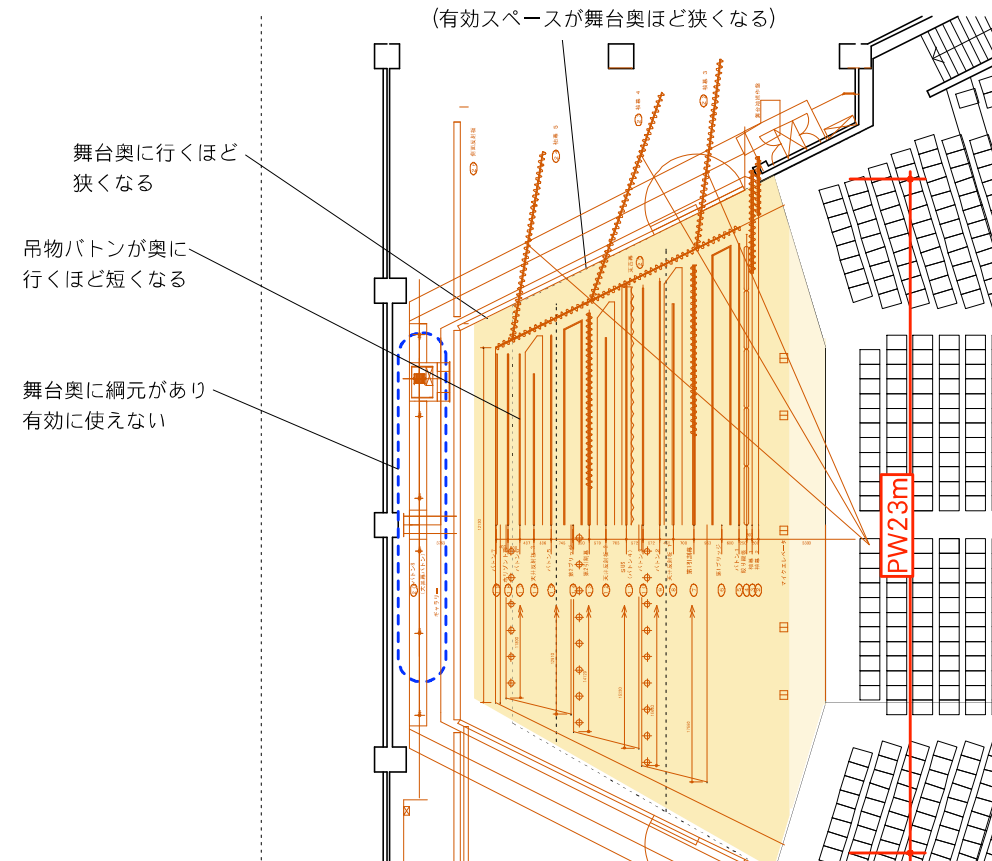
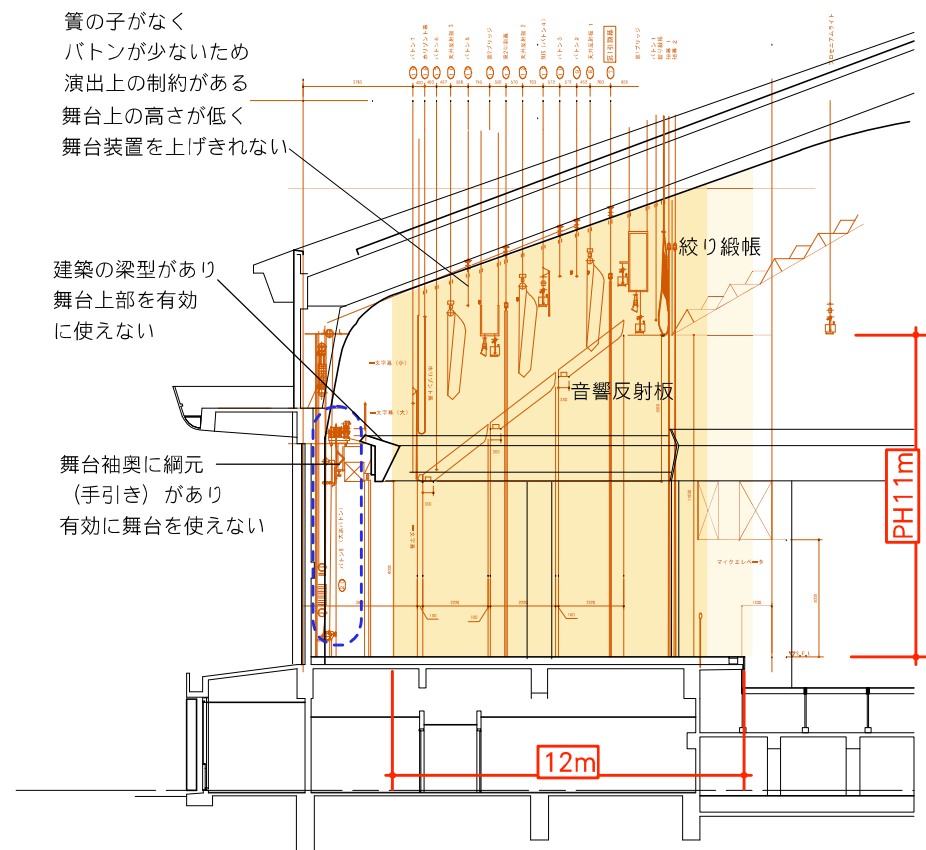
再整備計画客席数	1階席	2階席	3階席	4階席	計
通常席	1102	260	343	286	1991
車椅子席	8	2			10
計	1110	262	343	286	2001

舞台サイズ
間口16.36M（9間）
奥行18.18M（10間）
プロセニウム高さ(PH) 12M
吊物バトン本数：31本
分速90mまでの無段階の可変速型、
最大積載量1トン、レベル設定及び
表示や同期運転の対応、
静音性能に優れた動力装置の採用

再整備計画



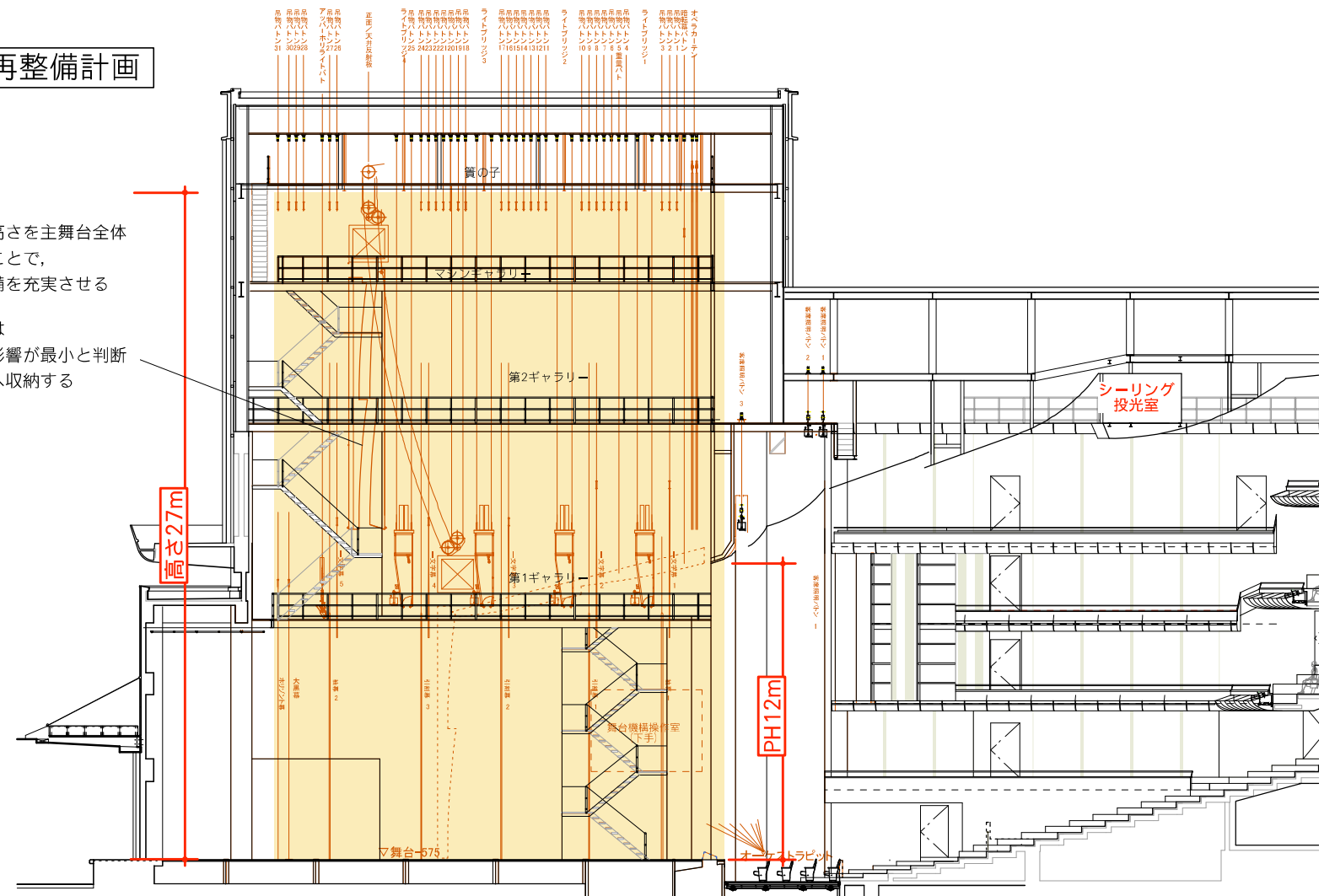
現 況



再整備計画

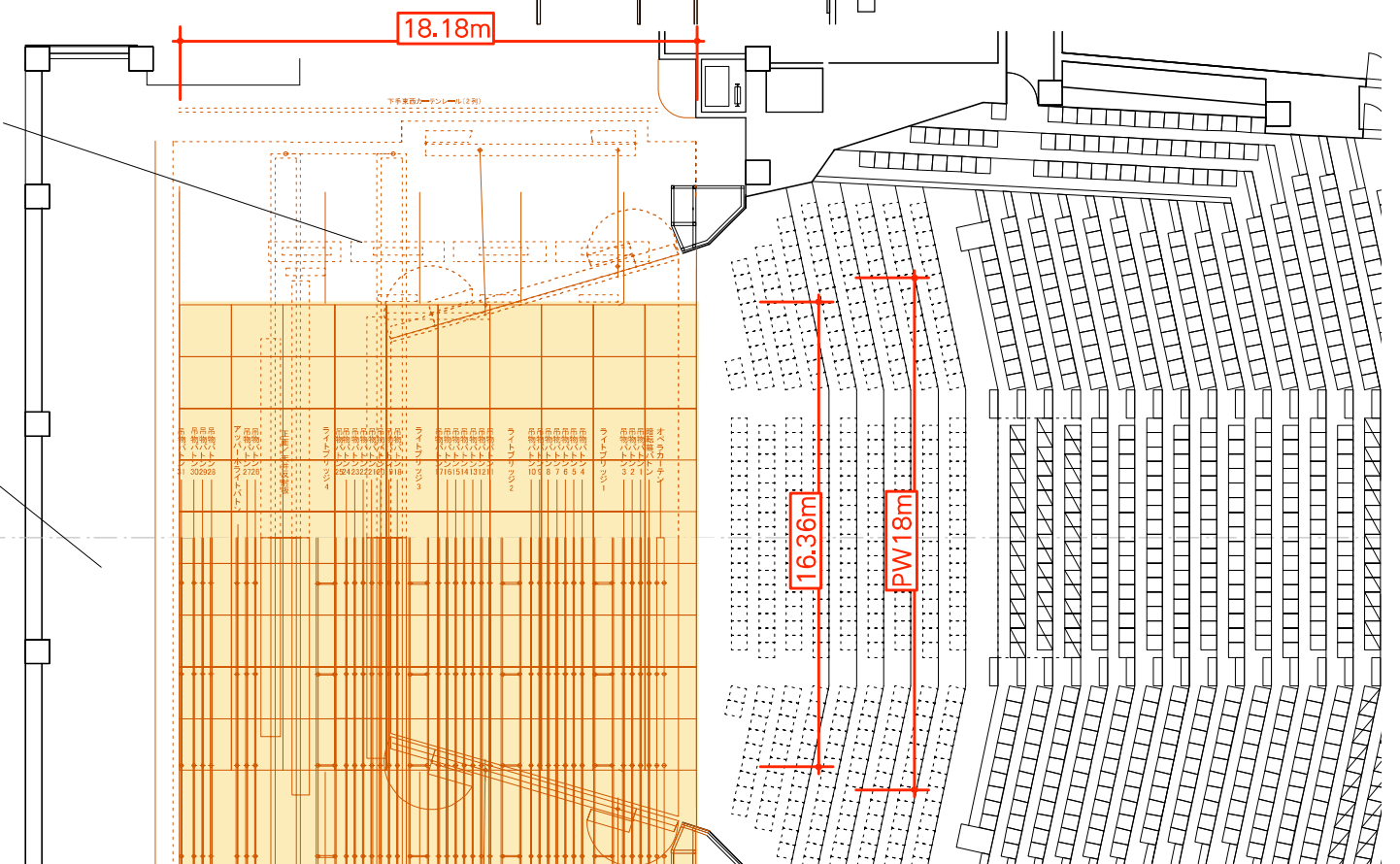
舞台上有効高さを主舞台全体に確保することで、舞台機構設備を充実させる

音響反射板は、舞台演出の影響が最小と判断される箇所へ収納される



ギャラリーを充実させると共に照明ブリッジと直行方向のサイドブリッジ、トーマンタルスポットライトを設置することで対応できる照明演出の幅を大きくする

舞台奥を有効に利用することが可能



□ 現況第2ホールの課題点と再整備計画の内容

- ・バトン等の吊り物数が少ないため、舞台転換に時間がかかるなど、演出に制約が生じている。
→分速60mまでの無段階の可変速型、最大積載量1トン、レベル設定及び表示や同期運転の対応、静音性能に優れた動力装置の採用を行い、多様な演出を可能にする。第1ホールと同じ仕様とする。
- ・音響反射板の機構が古いため、調整や設置に時間がかかる。
→主舞台背面部に、吊物バトンが無い範囲に、音響反射板を収納する。
また、側面反射板は、両サイドの袖上部（上下）に計画する。
全て電気を動力とする吊物設とし、舞台の広さを有効に活かせる計画とする。

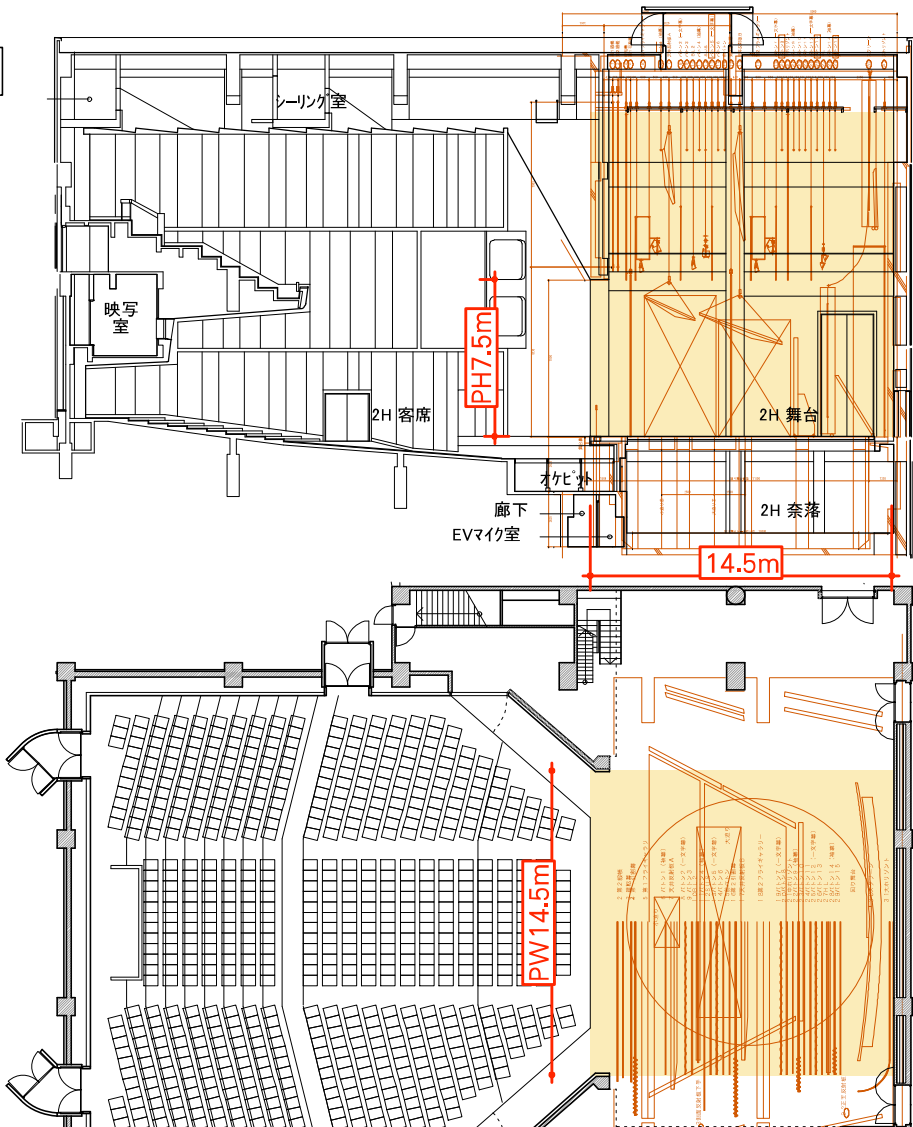
- ・舞台レベルが低く、1階席の勾配が緩いため視覚条件が良くない。2階立ち見席は活用が困難。
→舞台レベルを現況高さから+300mmとし、客席勾配も改修、1階席の勾配を設け、視覚条件を向上させる。
2階席は立ち見席を取りやめ、最前列を舞台に近づける。
上下（かみしも）の1,2階席の中間レベルにバルコニー席を設置する。
- ・舞台袖が狭く、フライタワーもないため、舞台演出上の制限が発生している。
→舞台袖の拡張、フライタワー増設が構造上困難であったため、ワン・ボックスのホールとして整備する。
低かった固定プロセニウムを撤去、幕によるプロセニウム形式を基本型としつつも、様々な演目、演出に対応できるよう複数の舞台形式（スラストステージ、仮設脇花道を持つ和物など）への可変を可能とする。
様々な市民利用、中小規模劇場向けの製作作品なども受け入れることで、公演・発表の幅を広げ、芸術文化育成にも寄与する。

現況第2ホール 主な施設・仕様

現況客席数	1F	2F	計
通常席	712	222	934
車椅子席	5		5
立ち見席		60	60
計	717	282	999

舞台サイズ（プロセニウム時）
間口14.4M
奥行14.5M
プロセニウム高さ(PH) 7.5M
吊物バトン本数：15本 全て手引き

現 況



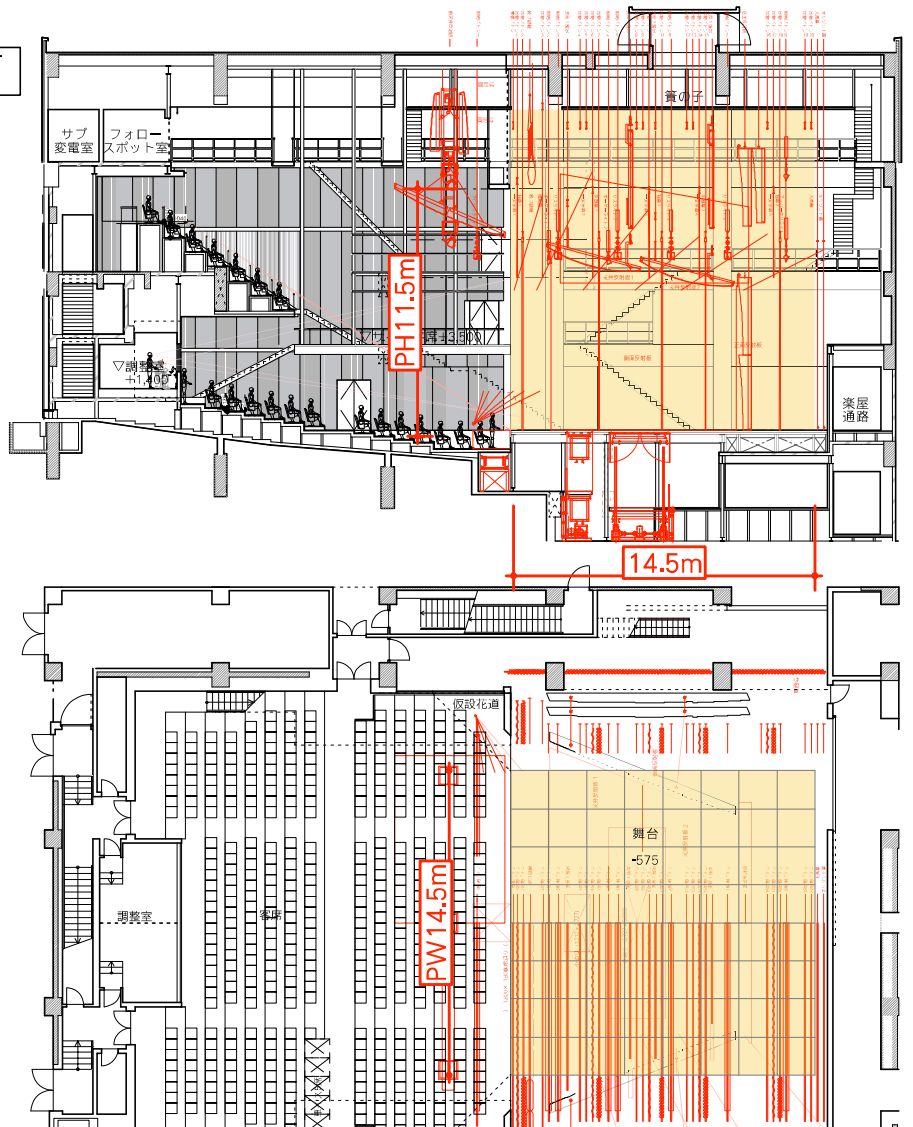
再整備計画第2ホール 主な施設・仕様

再整備計画客席数	1階席	サイド席	2階席	計
通常席	468	22	220	710
車椅子席	5			5
計	473	22	220	715

※車椅子席を取り外し、通常席とした場合720席

舞台サイズ（プロセニウム時）
間口14.5M（8間）
奥行14.5M（8間）
プロセニウム高さ(PH) 11.5M
吊物バトン本数：21本
分速60mまでの無段階の可変速型、最大積載量1トン、レベル設定及び表示や同期運転の対応、静音性能に優れた動力装置の採用

再整備計画



□第1ホールの目的と舞台機能

- ・第1ホールにおいては大規模な舞台芸術（演劇,伝統芸能,バレエ,ミュージカル,オペラ等）,電気音響を使用した音楽催物（ポピュラー、ジャズ、ロックなど）,音響反射板を用いる生音の響きを活かしたコンサート（吹奏楽/オーケストラ/声楽/器楽など）,そして講演や大会/映画会といった,さまざまなジャンルの催物がおこなわれる。
- ・ホールはプロセニウム幅=18.0m, プロセニウム高さ=12.0mを基本とするプロセニウム形式のステージである。舞台部の簀の子高さは27.0m以上とする。
- ・コンサート時には舞台後方及び側方に格納した音響反射板を舞台上に組む。また舞台の最前部には仮設のプロンプターボックスとなる切穴をもうける。
- ・客席は比較的コンパクトな平土間席を4層の水平バルコニーがとりまく立体的な構成である。
一席あたり510ミリ,前後間隔960ミリを基本とするゆとりある配置とする。
また, 車椅子席を1階席に8,2階席に2（計10）もうける。
舞台音響/照明の仮設操作ブース設営のために予め定められた範囲の座席は取り外し式とする。
- ・現況と同じく,再整備後においても,多様な巡回公演が日替わりで乗り込んでくることが予想される。これらに対して柔軟かつ効率的に対応しうる舞台機能を実現する。
- ・またプロフェッショナルなカンパニーから学校演劇まで幅広いレベルの利用者に用いられることから,設備の分かりやすさと安全性を最優先する。
- ・一方で建物は岡崎公園の一角に位置し,琵琶湖疏水にも面することから景観上の配慮が大きなポイントとなる。建物高さの規制のなかで, 有効かつメンテナンス性の良い機構等の配置とする。吊物機構においては簀の子下のマシンギャラリー階に縦型の巻上機を配置する。
- ・舞台機構/音響/照明の全ての設備について操作盤や制御盤の静粛性に配慮し, 実際の舞台上演のさまたげにならないよう設置する。

□舞台機構設備

- 【基本方針】
- ・プロセニウム形式の舞台に加え,オーケストラピットをもうける場合やオーケストラピット迫りを舞台面まで上昇をさせて前舞台として利用する場合,など様々な演出の要求に従って前舞台を可変することで様々な舞台形式を実現できるものとする。また,音響反射板を設置することで,生音を活かした音楽にも対応できるようにする。
 - ・舞台機構設備の操作は、仕込みから本番までの操作を簡便に行うことができると共に,その時々
の状況に合わせて,最も望ましい位置で操作ができるように3つのタイプの操作卓を設置する。
それぞれの操作については,簡便な操作を基本とし,安全性・安定性の高いシステムを導入する。
 - ・プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々なレベルの利用者に対応できる
多機能性を備えるとともに安全性にも配慮した舞台機構設備とする。
- 【吊物機構設備】
- ・主舞台上部には,31本の吊物バトンを設置するとともに,4基の照明ブリッジ及びアッパー
ホリゾントライトバトンを設置する。さらに,照明ブリッジの両側に照明ブリッジと直交する
方向に合計4基（上下に各2基）のサイドブリッジを設置し,主舞台横方向の任意の高さから投光
できるようにする。
 - ・主舞台での吊物バトンを制約しない範囲に,天井と正面を一体化させた音響反射板を設置する。
また,側面反射板は, 両サイドの袖上部（上下）に設置する。これらは全て電気を動力とする
吊物設備とし,舞台上部に巻取りドラムを設置することで,舞台床面から綱元を無くし,舞台の広さを
有効に活かせるものとする。
 - ・舞台前の客席上部には,客席照明バトンを3本設置する。この内2本は使用しないときに舞台前の
客席天井内に格納できるものとするが,オーケストラピットを利用する際には上部からの投光が
できるものとする。
 - ・幕類の吊物としては,オペラカーテン（開閉、昇降、絞り）,暗転幕,一文字幕,袖幕,大黒幕,
ホリゾント幕を設置する。一部の幕類を除いて,公演ごとに任意の吊物バトンに吊り換える
ことができるものとする。
 - ・主舞台上部の舞台照明は,4基の照明ブリッジを起点として,サスペンションライトと
ボーダーライトを設置ができるようにバトンを設ける。加えて,アッパーホリゾントバトン
を設置する。

- ・主たる吊物バトンは,今日の多用な演出を可能にするために,分速90mまでの無段階の可変速とするとともに,最大積載量1トンまでを吊上げる性能を備えとする。この吊物バトンの制御方式として,レベル設定及び表示や同期運転を可能とする。さらに駆動時の静音性能に優れた動力装置を採用する。また巻上げ機については,建物の外観を極力コンパクトに計画するために縦型のものとする。

- ・ただし,天井反射板を吊上げる重量バトンは,安全性の高い一定速の低速運転（分速3m）とする。

【舞台床機構設備】

- ・主舞台前部にオーケストラピットを設えることができるオーケストラピット迫りを設置する。この迫りを沈めることでオーケストラピットを形成することができ,かつ舞台面まで上昇させることで舞台前部に客席ワゴン（手動で3基を設置）を積載することにより客席としても利用できるものとする。
また,オーケストラピットとして利用する際に,前舞台下部の蹴込みを取り外すことで,オーケストラ演奏面を拡張できるものとする。

- ・オーケストラピット迫りの一部（下手角部）をオーケストラピット迫りとは別に昇降させることができるオーケストラピット小迫りとして計画する。このオーケストラピット小迫りを別駆動させる場合に、車椅子などを利用する演奏者の安全性を考慮する。

【舞台機構操作卓】

- ・舞台機構の主たる操作卓は,舞台下手の上部に計画する舞台機構操作室に設置する。ただし,舞台形式によって舞台床面の任意の位置に移動して操作することができる副操作卓も設置する。さらに,個別の装置の動作確認などを目視しながら行うことのできる手元操作部も設置する。この副操作卓と手元操作部は,下手袖だけでなく,反対側の上手袖にも設置ができるように操作卓の接続コンセントボックスを設置する。

- ・舞台吊物設備の制御盤は,すのこ上部に設置する。また舞台床機構の制御盤は,奈落に設置する。

- ・インターロック機構を設置し、保安上重要な機能を確保する。

□舞台照明設備

【基本方針】

- ・プロセニウム形式の舞台を基本とし,さらにオーケストラピットの利用など様々な変化に対応できるような舞台照明設備の投光拠点と回路配置とする。

- ・大型の音響反射板についても,十分な明るさを確保しつつ,音響反射板内の温度変化やメンテナンスに配慮した天井反射板ライトを設置する。

- ・調光操作卓は,客席後部の調光室内に設置するが,軽微な催物では舞台袖でも操作ができるように遠方操作盤を舞台下手袖に設置する。また必要に応じて持込みの調光操作卓や機材に柔軟に対応することができる拡張性と仮設性を備えたシステムとする。

- ・さらに,様々な持込み機材を想定し,これに対応できる電源を設ける。

- ・プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々なレベルの方々の利用や演出を支援することのできる機能を備えるとともに,安全性や経済性にも配慮した舞台照明設備とする。

【負荷設備】

- ・主舞台上部には、舞台面の仕込み作業と同時に照明設備の吊込み作業や明かり合わせ（シューティング）を行うことができる照明ブリッジを4基設ける。それぞれの照明ブリッジには,ボーダーライトやサスペンションライトを設置できる回路を配置する。

- ・主舞台の両サイド、照明ブリッジと直交する方向にサイドブリッジを上下2基ずつ設置する。このサイドブリッジは,主舞台の両サイド方向の任意の高さから投光ができるように設置する。

- ・プロセニウムアーチの内側には、舞台前部を投光するためのトーマンタルスポットライトを上下にも受ける。

- ・主舞台床面にも必要な調光回路を適宜配置する。この床コンセントを使用する際に接続ケーブルが舞台袖からの登退場の制約にならないように,主舞台の両サイドに舞台の奥行き方向に向かって通線ピットを設置し,その中を通線するものとする。

- ・客席内の投光拠点としては,客席両サイドの壁面にフロントサイド投光室を設ける。この投光室は,客席からのサイトラインや見え方に十分配慮して設置する。また,客席上部には,シーリングスポットライト投光室,フォロースポットライト投光室を設置する。フォロースポットライト投光室の両サイドは,第2シーリングスポットライト投光室として利用できるように回路を配置する。

- 天井反射板内の照明は,LED器具を設置することで温度上昇や短期での断球による電球の取り替えの手間を軽減化していくものとする。ただし,円滑な調光や多重影などの影響がない器具を選定する。

- 調光回路については,将来的な設備修繕や更新時の負担低減にも配慮し,固定の調光回路だけでなく,更新が容易に行える移動型調光器を導入する。

【調光設備】

- 調光操作卓はデジタル方式でメモリー機能などを備えた設備とすると共に,C P Uの二重化など,バックアップ機能を備えたシステムとする。

- 調光器は,漏電や温度異常検知,断球,電圧や電流値の異常検出などを調光操作卓や調光室の監視用P Cで行うことのできるインテリジェント機能を備えた調光器とする。

- 調光信号については、将来的な舞台照明設備機器の調光信号規格の動向を踏まえるとともに,ムービングスポット及びLEDスポットにも対応できる伝送システムとする。

- 調光設備は、保守（O Sを含む）が容易でかつ安価であり、汎用性があること。

- 調光設備にワイヤレスリモコン装置、バックアップ電源を設けること。

□舞台音響設備

【基本方針】

- 舞台音響設備としては、第一ホールを利用して行なわれることが想定される様々な催物に対して、「拡声」「再生」「録音」の機能を備えるとともに、上演中の音声や映像を舞台や客席の各所だけでなく,楽屋やホワイエ,管理事務所でもモニタリング（映像、音声）できる設備を設置する。また,舞台の進行を司る連絡を随時伝えることのできる連絡設備も舞台音響設備の一部として設置する。

- 舞台音響設備は,壁や天井の形状・仕上げなど建築的に検討された音響設計に基づく生音の響きに十分な配慮を行い,これら建築音響の特性を踏まえた電気音響設備としシミュレーションを行った上で音響デザインを行い,設置する。

- 舞台音響設備は,プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々なレベルの利用者や演出を支援することのできる機能を備えるとともに安全性にも配慮した舞台音響設備とする。

- プロセニアム形式の舞台を基本とした舞台音響設備の配置とするが,オーケストラピットの利用など様々な可変にも対応できるような舞台音響設備とする。

- 音響デザインを行ったホール音響のシュミレーション結果を視聴できる場を設けること。

- 残響音については、建築音響、電気音響でバランスを取り、ホールの目的に基づく演目の演出等がスムーズに行えるよう設置し、音響障害が生じないものとする。

- 音響調整卓は、客席後部の音響調整室内に設けることとするが,舞台袖でも操作ができるように遠方操作卓（別途工事）を舞台下手袖に計画する。また,必要に応じて持込みの音響調整卓や機材に柔軟に対応することができる拡張性と仮設性を備えたシステムとする。

- さらに,昨今の電気楽器を多用した大型のコンサートにも対応できるように様々な持込み機材に対応できる電源を確保する。

【音響設備】

- 主たる設備として,プロセニアム開口の上部にプロセニアムスピーカを配置すると共に,プロセニアム両サイドにフロントサイドスピーカ,舞台の蹴込み部分には,フロントスピーカを設置する。

- ただし,両サイド客席や上部バルコニー席への配慮として,両サイド壁面や天井部に補助スピーカを設置し、プロセニアム廻りからの音が届きにくい部分を補強する。

- また,音により客席空間内に方向性を与えると共に,臨場感を創り出すための効果用スピーカを客席両サイド壁面や後壁に設置する。

- さらに,演出や舞台空間の拡張に応じて様々な位置に移動することのできる移動型スピーカ（別途工事）を計画する。また,必要に応じて客席内の様々な箇所にスピーカやマイクを仮設できるようにコンセントを設置する。

- 主舞台内部には,仕込みやバラシといった作業を安全かつスムーズに進行させるための指示を伝えるための仕込用のガナリ用スピーカを配置する。

- また、出演者の声や音を舞台上の出演者に返すためのフィードバックスピーカを配置する。

- クラシックコンサートなどの演奏会での録音を行なうために,前舞台上部に三点吊マイクを設置する。

- 音響調整卓はデジタル方式の音響調整卓を採用し,各設備間の信号伝送をデジタル伝送とする。このことで音質劣化の低減やノイズ混入を最小限に抑える。

【舞台連絡設備他】

- スタッフ間の連絡設備（無線、有線インターカム）を設置する。
- ホールの映像設備として,ビデオプロジェクターと必要な映像再生装置を設置する。ただし,フィルム用の映写機については,持込みを想定したインフラ機能を整備する。
- 第1ホール/第2ホール/多目的スタジオについては全館を利用した大規模なイベントが想定されるため、楽屋等の連絡設備（映像および音響）は任意の2ホールあるいは3ホール間で情報伝達ができるものとする。

□第2ホールの目的と舞台機能

・中規模程度の舞台芸術（演劇・伝統芸能,バレエ、ミュージカルなど）の上演から,電気音響を使用した音楽催物（ポピュラー,ジャズ,ロックなど）に加えて,音響反射板を設置した生音の響きを活かしたクラシック音楽や声楽,器楽などのコンサート,そして講演や大会などの集会利用まで,さまざまな催物に利用するための舞台設備を設置する。

・改修にあたっては現況の舞台部と客席部を隔てる躯体を撤去し、舞台演出の自由度の向上をはかる。また上手/下手の両側に仮設花道（備品）を設営できるよう,客席最前列の壁面は可動式のパネルとする。全体としてプロセニアム形式を基本型としつつも,必要に応じて様々な演出に対応できる現代的なアダプタブル・ホールとして再生する。

・現況の舞台部の木製簀の子を全て撤去し,鋼製簀の子とする。また客席上部にも一部簀の子と固定ブリッジをもうける。

・客席からの視覚条件を向上させるため舞台は現況高さ+300ミリのレベルに新たに設定する。

□舞台機構設備

【基本方針】

・固定のプロセニアムを持たないワン・ボックスのホールであるが,幕類を活用してプロセニアム形式の舞台としても利用できるようにする。また,音響反射板を設置することにより生音を活かした音楽にも対応できるようにする。

・舞台機構設備の操作は,仕込みから本番までの操作を簡便に行うことができると共に,その時々
の状況に合わせて,望ましい位置で操作ができるように2つのタイプの操作卓を設置する。それ
ぞれの操作については,簡便な操作を基本とし,安全性・安定性の高いシステムを導入する。

・また利用に際しては,プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々な利用者に対応
する多機能性を備えるとともに安全性にも配慮した舞台機構設備とする。

【吊物機構設備】

・主舞台上部には,吊物バトンと照明バトンをあわせて21本の吊物設備を設置する。また前舞台
には,客席照明バトンと前舞台音響反射板と一体となったプロセニアムスピーカを設置する。

・主舞台に計画される音響反射板は、天井反射板と正面反射板を各々二分割し,舞台上部に格納
する。また側面反射板は,上下両袖にそれぞれを吊上げて格納するが,格納時の側面反射板下部
の高さを確保するため,上と下を二分割し前後に格納するものとする。

・さらに前舞台上部にも1本の客席照明バトンを設置する。

・これら吊物設備の全てが電動ドラム巻取式で,舞台床面には綱元をなくすものとする。

・幕類の吊物としては,絞り緞帳,暗転幕,一文字幕・袖幕,大黒幕,ホリゾン
ト幕を設置する。一部の幕類を除いて,公演ごとに任意の吊物バトンに吊り換えることができるようにする。また,
後方の幕類については,音響反射板設置時に二つ折りにして格納できるものとする。

・主舞台上部の舞台照明は、4本のサスペンションライトバトンおよび2本のボーダーライト
バトン、アッパーホリゾン
トバトンを設置する。

・主たる吊物バトンは、今日の多用な演出を可能にするために、分速60mまでの無段階の可変速
とするとともに、最大積載量1トンまでを吊上げる性能を備えるものとする。この吊物バトンの
制御方式として,レベル設定及び表示や同期運転を可能とする。さらに駆動時の静音性能に
優れた動力装置を採用する。また巻上げ機については,建物の外観を極力コンパクトに設置する
ために一般的な横型の物に比較してスペースの取らない縦型のものとする。

・ただし天井反射板を吊上げる重量バトンは,安全性の高い一定速の低速運転（分速3m）とする。

【舞台床機構設備】

・主舞台内に小迫りと大迫りを設置する。また,それぞれの迫り機構の安全設備として落下防止
ネットや昇降手すりを設け,迫りと連動して駆動できるものとする。これらの動力も吊物
設備と同様に電動で行なう。

・また主舞台センターの前部に1800角の電動客席迫りを設置する。この客席迫りは前舞台の
客席椅子を取り外して利用する際にはずした客席を舞台に持ち上げるための動力として利用
することを想定している。ただし,必要に応じ前舞台の一部として利用することも可能なように
設置する。

【舞台機構操作卓】

・舞台機構の主たる操作卓は,舞台下手の舞台機構操作卓で行なう。ただし,必要に応じて移動
できる卓とするとともに,反対側の上手袖にも設置ができるように操作卓の接続コンセント
ボックスを設置する。

・舞台吊物設備の制御盤は,下手フライギャラリーに設置する。また,舞台床機構の制御盤は,
奈落に設置する。

□舞台照明設備

【基本方針】

- ・プロセニウム形式の舞台を基本としつつ,前舞台の拡張,脇花道の設置など様々な変化に対応できるような舞台照明設備の投光拠点,回路配置にする。

- ・音響反射板については、これまで同様の十分な明るさを確保しつつ,音響反射板内の温度変化や球替えの煩わしさに配慮した天井反射板ライトとする。

- ・調光操作卓は,客席後部の調光室内に設置するが,軽微な催物では舞台袖でも操作ができるように遠方操作盤を舞台下手袖に設置する。また,必要に応じて持込みの調光操作卓や機材に柔軟に対応することができる拡張性と仮設性を備えたシステムとする。

- ・さらに,様々な持込み機材を想定し,これに対応できる電源を設ける。

- ・プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々なレベルの方々の利用や演出を支援することのできる機能を備えるとともに安全性や経済性に配慮した舞台照明設備とする。

【負荷設備】

- ・主舞台上部には,4本のサスペンションライト,2本のボーダーライト,加えてアップーホリゾントライトを設置する。

- ・主舞台床面にも必要な調光回路を上下の袖に分けて配置する。

- ・前舞台上部には,客席照明バトンを1本設ける。この客席照明ボタンは,前舞台音響反射板を設置する際に上部に格納できるようにする。

- ・客席内の投光拠点としては,客席両サイドの壁面にフロントサイドタワーを設ける。また,客席上部には,シーリングスポットライト投光用のブリッジを2列設ける。また,客席最後部の上部には,フォロースポットライトを設置できる投光用のブリッジを設ける。フォロースポットライト投光室の両サイドは,必要に応じてシーリングスポットライトの投光拠点としても利用できるものとする。

- ・天井反射板内の照明は、LED器具を設置することで温度上昇や短期での断球による電球の取り替え手間を軽減化する。ただし,円滑な調光や多重影などの影響がない器具を選定する。

- ・調光回路については,将来的な設備修繕や更新時の負担低減にも配慮し,固定の調光回路だけでなく,更新が容易に行える移動型調光器を導入する。

【調光設備】

- ・調光操作卓はデジタル方式でメモリー機能などを備えた設備とすると共に,CPUの二重化など,バックアップ機能を備えたシステムとする。

- ・調光器は,漏電や温度異常検知,断球,電圧や電流値の異常検出などを調光操作卓や調光室の監視用PCで行うことのできるインテリジェント機能を備えた調光器とする。

- ・調光信号については、将来的な舞台照明設備機器の調光信号規格の動向を踏まえるとともに,ムービングスポット及びLEDスポットにも対応できる伝送システムとする。

- ・調光設備は、保守（OSを含む）が容易でかつ安価であり、汎用性があること。

- ・調光設備にワイヤレスリモコン装置、バックアップ電源を設けること。

□舞台音響設備

【基本方針】

- ・第二ホールを利用して行なわれることが想定される様々な催物に対し「拡声」「再生」「録音」の機能を備えるとともに,上演中の音声や映像を舞台や客席の各所だけでなく,楽屋やホワイエ,管理事務所でもモニタリング（映像、音声）できる設備を設置する。また、舞台の進行を司る連絡を随時伝えることのできる連絡設備も舞台音響設備の一部として設置する。

- ・舞台音響設備は、壁や天井の形状・仕上げなど建築的に検討された音響設計に基づく生音の響きに十分な配慮を行い,これら建築音響の特性を踏まえた電気音響設備としシミュレーションを行った上で音響デザインを行い,設置する。

- ・舞台音響設備は、プロフェッショナルの利用からアマチュア利用まで,様々なレベルの方々の利用や演出を支援することのできる機能を備えるとともに安全性にも配慮した舞台音響設備とする。

- ・プロセニウム形式の舞台を基本とした舞台音響設備の配置とするが,オーケストラピットの利用や脇花道の設置など様々な可変にも対応できるような舞台音響設備とする。

- ・音響調整卓は,客席後部の調整室内に設けることとするが,軽微な催物では舞台袖でも操作ができるように遠方操作卓(別途工事)を舞台下手袖に計画する。また,必要に応じて持込みの音響調整卓や機材に柔軟に対応することができる拡張性と仮設性を備えたシステムとする。
- ・さらに,昨今の電気楽器を多用した大型のコンサートにも対応できるように様々な持込み機材に対応できる電源を設置する。
- ・音響デザインを行ったホールの音響のシミュレーション結果を試聴できる場を設けること。
- ・残響については,建築音響,電気音響でバランスを取り,ホールの目的に基づく演目の演出等がスムーズの行えるよう設置し,音響障害が生じないものとする。

【音響設備】

- ・主たる設備として,プロセニアム開口の上部にプロセニアムスピーカを3箇所設置する。両サイドのフロントサイドスピーカは,移動型スピーカ（別途工事）を計画する。
- ・ただし,両サイド客席や上部バルコニー席への配慮として,両サイド壁面や天井部に補助スピーカを設置し,プロセニアム廻りからの音が届きにくい部分を補強する。
- ・また,音により客席空間内に方向性を与えると共に,臨場感を創り出すための効果用スピーカを客席両サイド壁面や後壁に設ける。
- ・さらに,演出や舞台空間の拡張に応じて様々な位置に移動することのできる移動型スピーカ（別途工事）を計画する。また,必要に応じて客席内の様々な箇所にスピーカやマイクを仮設できるようにコンセントを設置する。
- ・主舞台内部には,仕込みやバラシといった作業を安全かつスムーズに進行させるための指示を伝えるための仕込用のガナリ用スピーカを配置する。
- ・出演者の声や音を舞台上の出演者に返すためのフィードバックスピーカは固定はねかえりスピーカーを設置する他,移動型スピーカ（別途工事）を計画する。
- ・音響調整卓はデジタル方式の音響調整卓を採用し,各設備間の信号伝送をデジタル伝送とする。このことで音質劣化の低減やノイズ混入を最小限に抑える。

【舞台連絡設備他】

- ・スタッフ間の連絡設備（無線、有線インターカム）を設置する。
- ・ホールの映像設備として,ビデオプロジェクターと必要な映像再生装置を設置する。

- ・第1ホール/第2ホール/多目的スタジオについては全館を利用した大規模なイベントが想定されるため、楽屋等の連絡設備（映像および音響）は任意の2ホールあるいは3ホール間で情報伝達ができるものとする。

□多目的スタジオの目的と舞台機能

・多目的スタジオは第1ホール/第2ホールのリハーサルを主目的とし,さらに200席程度の客席をスタッキングチェアー等で設け,小規模な公演会場としても機能する空間とする。

・公演時の演目の演出等がスムーズに行えるように機器を配置する。また様々な持込み機材を想定し,これに対応できる電源を設ける。これらを設置できるように,多目的スタジオ上部には,鋼管パイプを井桁に組んだグリッド天井を床からおおむね5mの高さに設置する。また,ギャラリーレベルは舞台照明操作卓や音響調整卓を設置して,舞台照明の調光や音響調整を行なうためのスペースとする。

□舞台照明設備

- ・舞台照明設備として小規模な公演を行なうことができる電源および容量を確保する。
- ・調光設備として,調光主幹・調光器盤/調光器/調光操作卓を調整ギャラリーに設置する。
- ・負荷設備としてスポットライト等を設置する。

□舞台音響設備

- ・舞台音響設備として多目的スタジオ床廻りや舞台音響調整卓を置くことを想定するギャラリー廻りにコネクター盤を設置する。このコネクターを利用して必要に応じて音響調整卓やスピーカーなどを必要箇所に配置する。
- ・舞台音響調整卓については,多目的ホール床面でも操作を行なうことに加え,ギャラリーレベルでスタジオ全域を見渡しながら音響調整を行なうことも可能とする。
- ・舞台連絡設備（音声モニター架,マイク,スピーカ,映像機器架,カメラ等）についても,必要箇所に設置する。
- ・第1ホール/第2ホール/多目的スタジオについては全館を利用した大規模なイベントが想定されるため,楽屋等の連絡設備（映像および音響）は任意の2ホールあるいは3ホール間で情報伝達ができるものとする。